

## あかねがくぼかよ子

女性と若者の力で都政を良くする

### PROFILE

1975年生まれ。杉並区浜田山在住。東京大学卒業後、ベンチャー、大手IT企業でビジネス(事業戦略、業務改革、マーケティング)に従事。自身の経験を活かして、ワークライフバランス、適職発見、働き方改革を支援する活動にも尽力。2017年夏より都議会議員(1期目)。経済・港湾委員会、各会計決算特別委員会、予算特別委員会所属。

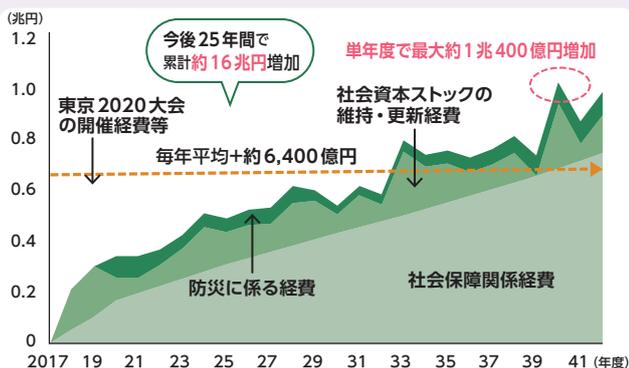
### ～海外スタートアップ企業を東京に誘致する産官学連携を加速～

平成30年第4定例会にて、**新産業についてのあかねがくぼの一般質問と知事の答弁が複数の新聞社に取り上げられました。**経済界も都の産業政策に注目している理由とは?

財務省の推計によると2025年時点では、現役世代1.8人で1人の高齢者を支えることに。

今までの産業構造では社会保障の維持は困難。**マンパワーに依存しない(労働集約的ではない)新たな産業を育成し、税財源を確保することが急務です。**

都の直面する膨大な財政需要は社会保障関連経費だけではありません。高度経済成長期に建設された道路、橋、学校、病院などの**社会資本ストック**も一斉に**更新時期**を迎えます。それらの維持補修にかかる経費、防災に係る経費など含めると、今後25年間で必要となる経費は**約16兆円もの増加額**となる見込みです。



※東京2020大会の開催経費等、防災に係る経費、社会保障関係経費及び社会資本ストックの維持・更新経費について、2017年度からの増加額(東京2020大会の開催経費等は、2016年度及び2017年度の合算額からの増加額)を積み上げたものです。

かつて日本はモノづくり大国として、世界経済をリードしていましたが、失われた30年で長期間の経済停滞からは抜け出せていません。



第4定例会で質問する様子

一方、世界ではインターネット技術による第3次産業革命を経て、**ロボット、IoT、人工知能などの第4次産業革命がすでに始まっています。**日本はそんな世界の潮流には乗り遅れており、**危機感を持って挽回していかなければならない**と考えます。

**Q** (あかねがくぼ) 第4次産業革命の先端技術を活用すれば、医療、介護、農業分野でも成長産業に生まれ変わることが可能。世界では先端技術を持つ優れた企業の誘致合戦が始まっているが、東京都としても**新産業エコシステムの構築を成長戦略**と位置付け、より積極的に投資するべきでは。

**A** (小池都知事)

- 都は昨年、特区制度を活用してロンドン、パリ、サンフランシスコの海外三都市に「**アクセス・トゥ・トウキョウ**」を設置し外国企業を戦略的に誘致。今年度からはシンガポールにも設置し、取組を加速。
- 先進的な技術を有する**海外スタートアップ企業**を支援する**アクセラレータプログラム**を実施。その成果を披露するための「**ビジネスプラン発表会**」を開催。
- 2019年4月からは産官学の関係者が連携して「**エコシステム**」の形成に向けた検討を開始。イノベーションの連鎖が続く、魅力的なビジネス環境を構築したい。

### 中小企業向け支援事業も時代に合わせて見直しを

都の産業支援事業の中には、効果を検証せずに慣習的に実施されているもの、時代に合わないもの、一部の団体が利益を得てしまっているものが少なからず存在しています。より効果的な経済政策となるよう予算配分の見直しを要望していきます。

#### 新事業のご紹介

- 次世代イノベーション創出プロジェクト2020**: 中小企業を主体としつつ大学や研究機関、他企業など様々なプレイヤーの連携を促し、社会課題を解決
- 海外展開総合支援**: アジア諸国等への販路開拓を支援
- 女性ベンチャー成長促進事業**: 起業家を目指す女性を増やすロールモデルの創出



～シニアもハンディのある人も。誰もが活躍できる就労環境に向けて～

## 人生100年時代に向けたシニアのやりがい創出

都は高齢者の就業対策について、軽作業を中心としたシルバー人材センターを長年行ってきたが、新たにホワイトカラー向けに取組をスタート。



経済港湾委員会の様子

### 東京セカンドキャリア塾

- 新たなチャレンジのため学び直しの場
- 企業見学、受講生同士の交流なども重視
- 6カ月間のカリキュラム(無料)



### 東京キャリア・トライアル65

- 高齢者を企業へ派遣(年間300名以上)
- 新たな仕事を試しに体験でき、活躍の場を広げる
- 企業側は高齢者雇用のノウハウを獲得



多くのシニアが第二の人生を迎えられます。社会と何らかの関わりを持ち続けることは、心身の健康や人生の充実感につながります。それぞれに適した社会参加の方法についてご支援できれば幸いです。

## 就労に困難を抱える人でも、経済の担い手に 生活困窮者をつくらないソーシャルファームへの取組



畑でキッチン

### ソーシャルファームとは?

障がい者、難病患者、一人親など、労働市場で不利な立場にある人が従業員の約3割以上を占め、活躍している社会的企業。福祉施設とは異なり公的資金投入は最小限度にとどめ、企業的手法で収益を上げ経営される。日本にはまだ数少ないが、ヨーロッパを中心に海外には多く好事例が存在している。

しいたけ栽培ハウス▶



Q

(あかねがくぼ:平成30年第4定例議会)

就労困難な人の雇用を促進しながらも、独立採算で経営を成り立たせることができる起業家の存在が必要とされる。そのような起業家育成の仕組みを検討するべきでは。

A

(小池都知事)

- 就労を希望する誰もが、個性や能力に応じて自分らしく活躍できる社会を作るため、母体となる社会的企業を設立し経営する起業家を数多く生み出し、育成していくことは重要
- 現在、都では、社会全体で支え合う「ソーシャルインクルージョン」の考え方にに基づき、全ての都民の就労を応援する新たな条例の制定を目指しており、有識者会議を設置して就労支援のあり方についての議論を開始。ソーシャルファームなどをテーマに、幅広い議論を行う予定であり、その担い手となる起業家の育成や支援を含め、多角的に検討を進めていく

### 視察レポート

精神に障がいを持つ方が数多く就労され、企業的手法で運営されている「多摩草むらの会」を視察し都の有識者会議のメンバーでもある、代表理事の風間様にもお話を伺いました。「(前略) 福祉の枠を超え、障がいがあっても依存するだけでなく誰かの役に立ちたいと願う訓練生とともに、楽しく夢を追い続けられる法人を目指す」という理念の下、「生活困窮者をつくらない」という使命感で懸命に経営されている姿には大変感銘を受けました。

障がいのある方に限らず、誰もが誇りを持って働ける環境をつくるのがこれからの時代に求められていることであり、行政としてできること、すべきことは何なのか議論を重ね、実現に向けて尽力していきたいと思います。



▲販売店舗



◀夢畑

## KAYOKO's Cafe

〈タウンミーティング〉

お気軽にご参加ください

### 第9回 テーマ「豊洲市場の課題」

●日時: 4月28日(日) 10:00~11:30 ●場所: 杉並区荻窪 4-20-18 201

荻窪駅南口から徒歩3分の事務所で毎月開催しています(他地域でも開催可能)。皆様からのご意見、ご相談を直接お伺いします。毎月テーマを決めて開催。●申込みは「氏名、住所、連絡先」をお知らせください。

TEL: 03-6883-3373 FAX: 03-6740-6448 Mail: info@a-kayo.com



困っていること、改善したいことなど、ご意見・ご要望をお寄せください!

連絡先 あかねがくぼ事務所

〒167-0051 杉並区荻窪4-20-18 201

TEL: 03-6883-3373 FAX: 03-6740-6448

Mail: info@a-kayo.com

友達追加 / LINEで登録! KAYOKO 通信 LINE版

女性の目線で生活にかかわる都政のニュース、イベント情報などを不定期でお届けします。(LINE アプリを起動して、[その他] タブの[友だち追加] でQRコードをスキャンします。)

